

現代日本論概論「現代日本における家族」

第11講 家族の経済学 (2)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 経済学的な観点から家族と労働を把握する

1 前回課題について

視角

- 4種類の活動の平均的な長さと変化の仕方の違い
- おなじ世帯構成の男女間比較
- 男性、女性それぞれの世帯構成による違い

注目すべき点

- 1次・3次活動と2次活動(仕事・家事)の性別、世帯構成による差
- 仕事・家事時間の男女差
- 子供の年齢と女性の仕事・家事時間
- 高齢層の仕事・家事時間
- 若年独身層の仕事・家事時間の男女差

経済学的な論点

- 男性について: 「稼ぎ手」(breadwinner)モデル、指定労働時間
- 女性について: M字型曲線、就業継続率の変化、育児休業等の効果、パートタイム労働

注意事項

- 世帯構成から具体的な生活の状態を想像できるか?(特に高齢層)
- 数値が読みにくい場合はグラフにするとよい
- 「平均時間」であることに注意

2 授業内容

前回授業に引き続き、労働と性別役割分業について説明

3 課題再提出

毎回の「授業時間内課題」を次回授業に再提出

- 授業時間内課題はすべて再提出すること
- 宿題については任意
- 課題について自分で調べた資料などをふくめてもよい

日付順にならべて表紙（今日配布、または <http://tsigeto.info/brdface.pdf> から取得）をつけ、上端を綴じる。

- 「自己評価と感想」を書くこと
- 授業全体についての感想や意見などがある場合は「教員宛メッセージ」に
- 8月上旬（8/1-3）に返却する。もし来られない場合、「連絡先」に住所など書いておくこと。

各課題について、現在の観点からみて内容を修正したい場合は、緑以外の色ペンで修正する。または、新たに A4 判の用紙を用意して修正内容を書き、いっしょに綴じてもよい。

文献

Becker, G. S. (1965) "A theory of the allocation of time." *Economic journal*. 75, pp. 493-517.

樋口美雄 (1991) 『日本経済と就業行動』東洋経済新報社 .

川口章 (2008) 『ジェンダー経済格差』勁草書房 .

松信ひろみ (2008) 「夫婦間の勢力と4つの資本」渡辺深 (編) 『新しい経済社会学: 日本の経済現象の社会学的分析』上智大学出版, pp. 227-262 .

田中重人 (2007) 「性別格差と平等政策」嵩さやか・田中重人 (編) 『ジェンダー法・政策研究叢書9 雇用・社会保障とジェンダー』東北大学出版会, pp. 217-238 .

八代尚宏 (1993) 『結婚の経済学』二見書房 .